

新人弁護士として

会員 佐々木 慎平

1 新人弁護士として感じたこと

私は、修習地が愛知県であったことから、弁護修習は愛知県弁護士会の西三河支部であった。西三河支部では、ここ10年で所属弁護士が10倍以上に増えていたが、私は所属弁護士同士の関係が強いように感じられた。私がそのことを弁護修習でお世話になっていた弁護士に申し上げたところ「昔から西三河の人達は仲がいいから、他からは三河の連れシヨンと言われていてねえ」と笑って仰られた。西三河支部の仲の良さはそのような気質にもよるのかもしれない。その点、東京では弁護士数が多いことから、弁護士同士の関係は希薄になりがちなように思える。しかし、業務や会務などを通じて自分では思いつかないような考えをもった弁護士や、ユニークな事件や活動に注力している弁護士など多種多様な弁護士と交流を持つことができることは他所にはない最大の魅力であると感じている。

2 先輩や同期との交流

先輩である弁護士には、業務や研修などでお世話になっているが、親切で面倒見のよい方々が多く、大変ありがたく思っている。先輩弁護士は、経験や知識が豊富な上にご担当されている事件のスケールも大きいことから、お話を伺っていて勉強になると同時にモチベーションが上がることも多い。しかし、話の節々から苦労と努力が窺えることから、弁護士として誠実かつ勤勉であることの重要性を感じている。

同期との交流で思うことは、やはり所属事務所によって取り扱う事件の範囲や専門性が全く異なり、企業に勤めている者も少なくないことから、同じ法曹資格保有者であってもその進路は多様化しているということである。インハウスで働く友人は、株主総会や訴訟

の準備で忙しそうではあるが充実しているように見える。また、顧問先の弁護士の対応などについての話を聞くことが多く大変参考になる。同期の弁護士は、分からないことが多い中、意欲的に仕事に取り組んでいる者が多いように思う。特に、自分の興味のある分野について積極的に勉強をしている同期や、事件の裾野を広げるため複数の事務所に所属して職務を行っている同期などからは仕事に対する熱意を感じ、刺激を受けている。

3 新人弁護士としての抱負

新人弁護士として、陽気・勤勉・誠実に職務に取り組むとともに、スジのよい事件（人を騙して利益を得るような企業側などにつかない事件）を多くこなすことにより自分を鍛えていきたい。また、勉強会や委員会（民事介入暴力対策特別委員会）に参加することによって自分の活動の幅を広げていきたいとも考えている。

4 新人弁護士として 日々心掛けてのこと

弁護士は体が資本であると考えている。そこで、バランスの取れた食生活と適度な運動を心掛けている。食事は和食を中心として、野菜も多く食べるようにしている。しかし、こういった食事が続くと、化学調味料や油がふんだんに使用された料理を無性に食べなくなることがある。運動はジョギングと筋トレをしており、ストイックにボディメイクに励んでおられる先輩弁護士も少なくないことから（SNSでは120キロ以上の重量でベンチプレスをしている方も見受けられる）、私も先輩方を見習い頑張っていきたい。